

言語活動の充実を図る 言語技術を使った授業展開の研究

高知県 言語技術教育研究会

代表 梶原 和美

本研究会の活動の目的は、次の3点である。

- ①「言語活動の充実」を図る「言語技術」を使った授業展開の研究と実践
- ② 高知県東部地域における教員の研修の場を作る。
- ③ 教員の指導力向上

本年度開催した研修会は6回。

先進的な取組をされている広島県の先生方から

言語技術や言語技術を使った授業展開について学んだり、

演習を通してお互いの言語能力を高め合ったりすることができた。

本年度は高知大学教育学部を会場として研修を行うことができ、

研修内容の幅を広げることができた。

1. 研究会のテーマ

「言語技術」の指導は、児童生徒に学習や生活の基盤である「ことばの力」を身に付けさせることを目的としている。「言語技術」を用いる有効な手段は、最もことばと関係している国語科との関連を図ることはもとより、各教科・領域を横断して、授業の中に有効な技術を教科の目的と照らし合わせて授業の中に取り入れていくことである。そのためには、指導者自身がどの技術がどのような場面で使うと効果的であるのか習得していくことが必要である。

「言語技術」習得の目的は、児童の「論理的思考力の育成」と「コミュニケーション能力の育成」にある。

また、指導者が「言語技術」を習得することによって授業改善を図り、児童の学力

向上を図っていくことをねらいとしている。

今年度のスキルアップ研修では、「言語技術」を有効に授業に取り入れるために、「言語活動の充実」に結び付いていく実践事例を具体的に示していくこととした。

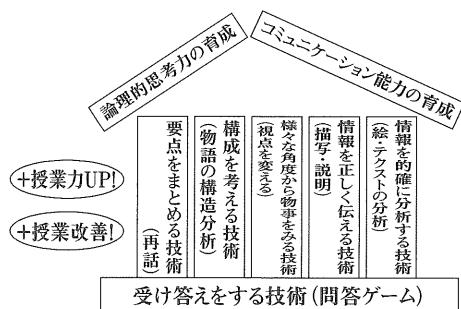
また、児童が言語技術を習得することで、ことばを多く獲得し、必要な場面で自分から活用していく児童の育成をねらいとして研修を行った。

2. 言語技術で育てたい力

次図でも示しているように、6つの言語技術のトレーニングによって、2つの力を育てる目的としている。1つ目は、論理的思考力の育成である。根拠を明確にしながら考えること、筋道を立てて考えること、情報をもとに自分の考えを整理することなどのトレーニングを通して、論理的

思考力の育成ができると考える。2つ目は、コミュニケーション能力の育成である。言語技術のトレーニングの多くは、他者との関係を前提とし、相手意識をもって伝え合うことや、目的と場に応じて自分の考えを表現していくことなどから、コミュニケーション能力の育成に効果があると考える。

そして、児童のことばの力を高めるためには教師のレベルアップが不可欠。教師自身が言語技術を意識し、教材研究を深めるとともに、わかりやすい発問や切り返し、説明するなどの指導技術を高めていきたい。



【言語技術で育てたい力】

指導技術として授業で意識する10のポイントは以下の通り。

- ① 省略せず、整った文で表現させる。
(単語の発言を察しないで最後まで言わせる。言い直しもさせる。)
- ② 主語をつけ自分の意見であることを意識させる。
- ③ 考えたこと・学んだことを自分の言葉で言わせる。(答えが同じでも自分の言葉で言わせる。)
- ④ 結論を先に言わせる。
- ⑤ 根拠を明らかにさせる。(どこから?なぜ? そう考えたか等必ず聞き返す。)
- ⑥ 自分の考えをもつ場を設定する。(自己の確立をめざす。)

- ⑦ 伝え合う場を設定する。(話し合いの論点を明らかにする。)
- ⑧ 書く活動を工夫して設定する。
- ⑨ 構造的板書を工夫する。(学習の足跡が分かるようにする。)
- ⑩ 言語環境を整備する。

3. 本年度の活動

本年度は、6回の研修会を実施することができた。研修会の内容は、主に、言語技術の基本を学ぶことと、各教科における言語技術を使った授業展開について考察していくことである。

また、高知新聞社や高知県NIEホットらいん、高知大学と連携し、研修会を行うこともできた。研修のほとんどは提案型の模擬授業形式で行った。提案者は、児童をつけなければならない基本の言語能力は何なのかを明確にし、ねらいに沿った教材で模擬授業を行う。さらに、どの場面でどの言語技術を使えば、児童の思考が深まっていくのかを参加者全員で議論し合う。

研修会は、参加者全員の指導力を具体的な教材を使って鍛え合っていく場である。また、若い先生方と経験豊富な先生方が実践交流をする場もある。



【研修会の様子】

本年度実施した研修会の内容は、次のページの通りである。

回	内 容	提案者
第1回	【言語技術の基本を学ぼう】 【第1講座】問答ゲーム～論理的な受け答えをしよう～ 【第2講座】ことばで遊ぼう～明日の授業ができる国語小ネタ～ 【第3講座】問答ゲーム～受け答えをする技術～演習：口頭問答と紙上問答 【第4講座】はがき新聞を書こう～今年度の目標を書いて交流しよう～ 【第5講座】新聞っておもしろい！春の小ネタ特集！	香美市立山田小学校 梶原和美 福山市立泉小学校 山崎千佐 尾道市立御調中央小学校 吉田貴志 NIEアドバイザー 川口加代子
第2回	【言語技術の基本と全国学力調査・問題分析より】 【第1講座】問答ゲーム～論理的な受け答えをしよう～ 【第2講座】絵・テクストの分析～情報を的確に分析しよう～ 【第3講座】言語技術の基本③描写～情報を正しく伝えよう～ 【第4講座】全国学力学習状況調査・問題分析から授業改善を！ 【第5講座】ことばで遊ぼう 【第6講座】説明文の模擬授業～3年生の教材を使って～ 【第7講座】明日の授業すぐ使える「新聞」小ネタ特集！	香美市立山田小学校 梶原和美 室戸市立吉良川小学校 松岡貴裕 香美市立片地小学校 浜地洋一 福山市立泉小学校 山崎千佐 尾道市立御調中央小学校 吉田貴志
第3回	【言語技術の基本と新聞活用】 【第1講座】言語技術の基本①問答ゲームの基本～論理的な受け答えをしよう～ 【第2講座】言語技術の基本②再話～要点をまとめよう～ 【第3講座】言語技術の基本③視点を変える～様々な角度から物事をみよう～ 【第4講座】新聞づくりについて学ぼう 【第5講座】言語技術の有効性 【第6講座】文学の小ネタ新聞から	香美市立山田小学校 梶原和美 安田町立安田小学校 安養寺倣恵 奈半利町立奈半利小学校 池田ひとみ 室戸市立吉良川小学校 松岡貴裕 福山市立泉小学校 山崎千佐 尾道市立御調中央小学校 吉田貴志 N I E アドバイザー 川口加代子
第4回	【言語技術の基本】 【第1講座】言語技術の基本①問答ゲームの基本～論理的な受け答えをしよう～ 【第2講座】言語技術の基本②再話～国語力を高めよう～ 【第3講座】学力調査分析と授業改善「話す・聞く」 【第4講座】新聞活用の授業を考えよう～投書を活用した模擬授業～ 【第5講座】物語の構造分析～教科書教材を使っての演習～	安田町立安田小学校 安養寺倣江 奈半利町立奈半利小学校 池田ひとみ 香美市立片地小学校 山本なるみ 福山市立泉小学校 山崎千佐 尾道市立御調中央小学校 吉田貴志
第5回	【言語能力を高める授業について】 【第1講座】問答ゲームの基本～論理的な受け答えをしよう～ 【第2講座】要約～論理的に考えよう～ 【第3講座】「提案する社会科」で論理的思考を 【第4講座】言語能力を高める授業づくり～教科書教材3学期の教材を使っての演習～ 【第5講座】ことばで遊ぼう 【第6講座】国語科・5年生の教材を使って模擬授業 【第7講座】新聞を授業に！	香美市立山田小学校 梶原和美 香美市立片地小学校 浜地洋一 香美市立片地小学校 茂松清志 福山市立泉小学校 山崎千佐 尾道市立御調中央小学校 吉田貴志

第6回	『社会科の授業づくりと実践発表』 【第1講座】「提案する社会科」で論理的思考力を 【第2講座】実践発表 【第3講座】高知県学力定着状況調査の問題分析 【第4講座】言語技術を活用した授業について	香美市立片地小学校 茂松清志 香美市立片地小学校 浜地洋一 福山市立泉小学校 山崎千佐 尾道市立御調中央小学校 吉田貴志
-----	---	---

4. 基本研修より

【6つの「言語技術」について】

○ 受け答えをする技術（問答ゲーム）

問答ゲームが全ての基本。問答ゲームを土台にしてトレーニングを行う。

広島県の「言語技術」では、10のステップで段階的なトレーニングを行っている。

1対1の対話ができない子どもは大勢での議論もできないし、自分の意見を伝えるディベートもできない。

問答ゲームからスタートして子どもたちの「なぜ？」を育て、自分の中にある答えを外に出す訓練を普段からすることが、自分で考えるトレーニングにつながる。話すこと・聞くこと・書くことに有効な技術。

○ 要点をまとめる技術（再話）

再話をもとに、書く力（作文力）をつける。授業の中では、聞き取ったことを書いたり、物語文のメモをしたりすることで要点をまとめるトレーニングを行う。

○ 構成を考える技術（物語の構造分析）

6構造分析〔冒頭－発端－山場（クライマックス）－結末－その後（主人公の）〕を定義に分けて物語分析を行う。文学的な文章の第一次の全体を捉える学習には大変有効である。全文を読む時に使う。

○ 様々な角度から物事をみる技術（視点

を変える）

様々な登場人物の立場に立ち、複眼的にものを見る目を養う。この技術からジグソー学習が生まれた。（国語の文学的な文章の指導には大変効果的である。）

○ 情報を正しく伝える技術（描写・説明）

自分が知っている情報を知らない人に伝える。正しく伝えないと伝えたいことが伝わらない。大きな情報から→小さな情報への原則を使う。

○ 情報を的確に分析する技術（絵の分析・テクストの分析）

教科の幅を越えて使われている。絵・テクスト共に授業で有効な技術。分析をする順序に従って分析を行う。絵・テクスト共に分析カードを使いながら分析をする。はじめは見えなかった物が見えてくる。

【模擬授業より】

「問答ゲーム」「再話」の導入指導を、下記の流れで行った。

[目標]

- 整った文で話したり書いたりすることができる。
- 理由を述べることができる。
- ある昔話を聞いてメモし、それを再構成して文章にすることができる。

主な発問と指示・説明	留意点
<p>1. 問答ゲームをする。</p> <p>「問答ゲームをしましょう。問答ゲームはゲームなので、ルールがあります。答える時には、次のルールを守りましょう。」</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">【ルール】</p> <p>① 主語を入れる。 ※ 誰の答えなのか、誰の考えなのかをはっきりさせ、答えに対して責任を持たせる。 <u>私（ぼく）</u>は……が好き（きらい）です。</p> <p>② 「何が」を入れる。 ※ 何が好きなのか、何を嫌いなのかをはっきりさせる。 <u>私（ぼく）</u>は<u>りんご</u>が好き（きらい）です。</p> <p>③ 結論を先に言う。 <u>好き</u>なのか<u>きらい</u>なのか、自分の考えの結論を先に言う。</p> <p>④ 理由を言う。 ※ なぜそう考えるのか、理由を言う。 <u>その理由は</u>……。 （どうしてかというと……、なぜかというと……）</p> <p>⑤ もう一度全体をまとめる言葉を言う。 <u>だから私（ぼく）</u>は<u>りんご</u>が好き（きらい）です。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ● 楽しい雰囲気で取組む。答えを待ちすぎたり、せかしたりしないように気をつける。 ● 子どもの発言を一度肯定的に受け止めてから、問い合わせをする。 ● 相手の目を見て話させるようにする。 ● 言い直しをさせて答え方を学ばせる。
<p>「あなたは、夏が好きですか。嫌いですか。」 自分の考えを言えるようにする。→となりの友達と問答をする。 →学級全体でする</p> <p>(予想される補助発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏を好きなのは誰なの？ 夏が好きなんだね。どうして？ では、最初から言ってみましょう。 相手の目を見て話しましょう。 <p>2. ランキング問答ゲームをする。</p> <p>「あなたは、四季の中でどの季節が好きですか。」 自分の考えを言えるようにする。→発表する。</p> <p>(予想される補助発問)</p>	<p>評価の観点</p> <p>【技術面】</p> <p>① 主語が入っている。</p>

- ・ 冬を好きなのは誰なの？
- ・ 秋が好きなんだね。どうして？
- ・ では、最初から言ってみましょう。
- ・ みんな、よくわかりましたか。わかった時は「わかりました」と返事をしましょう。
- ・ 理由が二つある時は、「理由は二つあります。一つ目は……。二つ目は……。」と言いましょう。

「○○小学校○年での好きな季節ナンバー1は、…でした。」

3. 再話をする。

これから、「ヘビのけんか」というお話を読みます。

2回読みます。1回目はゆっくり読みますね。メモを取らずに聞いてください。2回目はメモを取りながら聞きましょう。

その後、メモを見ながら、聞いた内容と同じお話になるように、原稿用紙に書きましょう。

(高学年のめあて)

- * あらすじや登場人物を変えない。
- * 主語を明らかにする。
- * 段落を作る。
- * 会話文を「」を使って書く。

それでは、始めます。

- ① 1回目の読み聞かせをする。
- ② 登場人物や要点について質問する。

どんなお話をしたか。

- ・ 昔あるところに、何が住んでいましたか。
- ・ ある日、何を見つけましたか。
- ・ 一匹がなんと言いましたか。
- ・ すると、もう一匹もなんと言いましたか。
- ・ そのうちに、とうとう二匹はどうしましたか。
- ・ 一匹のヘビがなんと言いましたか。
- ・ もう一匹のヘビもなんと言いましたか。
- ・ ヘビは、最後にどうなりましたか。
- ・ 後に、何が残りましたか。

メモシート（高学年）、絵カード（低学年）を配布する。

- ③ 2回目の読み聞かせをし、高学年はシートにメモを取らせる。
- ※ 低学年には、絵のカードを配る。お話をどんな順序か、絵の並び替えをさせる。

- ② 結論先行になっている。
- ③ 理由が言える。

【態度面】

- ④ はっきりした声で答えることができる。

- ⑤ 質問された人を見て答えている。

- メモはとらないで、聴き取ることだけに集中させる。

- 児童の様子を見ながら、読む速さを調整していく。

- 話の概略を把握させる。5W1Hを意識した質問をしていく。物語の構造をつかむことができる。

- 質問についての答えをあらすじに沿って板書し、分からなくなった時のヒントにする。

- 分かりにくい語彙などの確認をする。

- ④ メモをもとにして、原稿用紙に「再話」させる。

低学年 絵の下に、どんなお話をたか自分の言葉で書いてみましょう。

高学年 今から5分で再話をしてみましょう。段落は4つです。会話のところは「」を使って書きましょう。主語を入れなければいけないところは主語を抜かさないようにしましょう。

さあ、それでは始めてください。

(予想される補助発問)

- ① 主語は入っていますか。
 - ② 時間が半分過ぎました。
 - ③ 会話のところは「」を使いましょう。
 - ④ 自分の感想は書いてはいけません。

みなさん、よく書けましたね。それでは、低学年には絵の並び替えをして、どんなお話をしたかお話をしてもらいます。

3年生以上の人には書いたことを発表してもらいます。

今、みなさんが勉強したことは「再話」と言います。物語がどんな内容なのか、どんな順序で進んでいるのか、しっかり聞き取ることができましたね。

そして、段落に気をつけて、主語を抜かさないようにお話を書いていくことができました。

よくがんばりました。

評価の観点

【技術面】

- ① 全文再話ができるか。
 - ② 話の筋が通っているか。
 - ③ 段落を意識して書いているか。
 - ④ 必要な箇所に主語が入っているか。
 - ⑤ 感想が入っていないか。

● 再話は作文のきっかけとなるものである。

良いところをしっかりとほめるなどの適切な評価を行う。

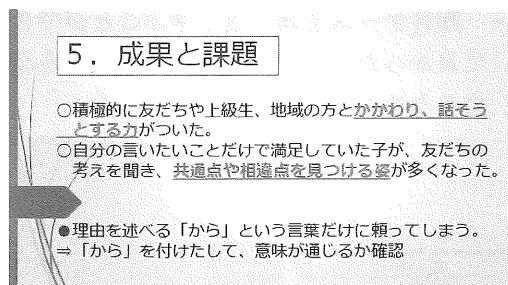
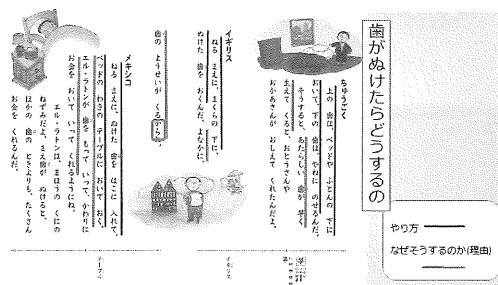
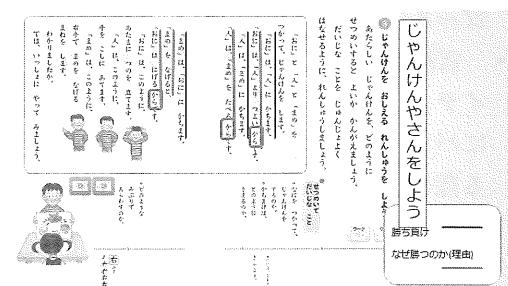
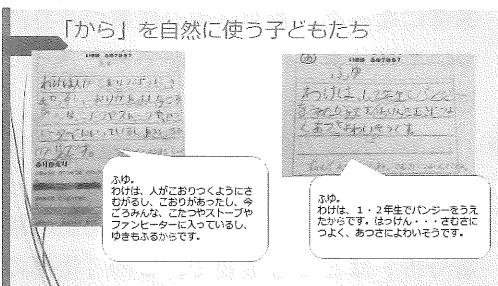
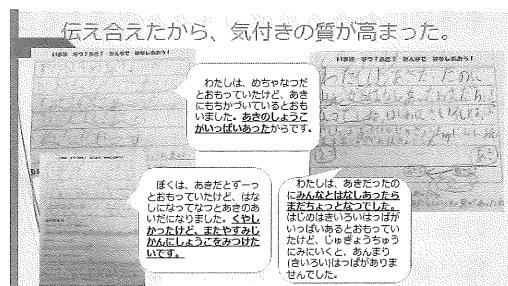
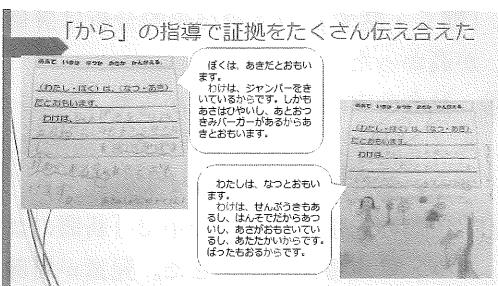
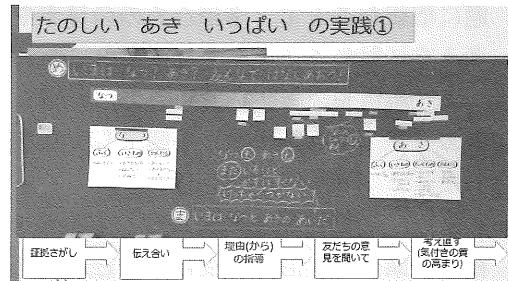
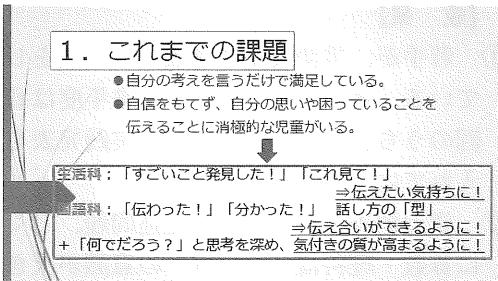
【使用したワークシート】

基本研修では、言語技術の基本を指導するための指導略案やワークシート等を作成し模擬授業を行った。

このような言語技術基本研修を行うことで、研修会に参加の先生方が6つの技術について学び、指導法やスキルを身につけることができた。

5. 実践報告より

【香美市立片地小学校 山本なるみ先生 1年：生活科の実践】



生活科で書いて表現する場において、国語科で学んだ言語能力の活用を図る関連指導を工夫することによって、自分の考え方や気持ちを適切に表現できる力が育成できる。そのような実践発表を通して、お互いに学び合うことができた。

6. 参加者の感想

- いろいろな年代の人が集まって同じ課題に取組むことで、多様なものの見方や考え方につれてることができてよかったです。
- 実践報告を聞き、紹介くださった乗り物カード（くもん出版）を購入し実践をした。
- 毎回、先輩の先生の実践や提案授業・模擬授業が演習形式で受けることができ大変参考になった。また、幅広い年齢層や多岐にわたる校種の方々と交流することができてよかったです。
- 朝の会では問答ゲームを行っている。国語はよく本文に戻って根拠を探すというのが学級の児童の口癖になった。情報の取り出しについても、教科に関係なく常に意識して取り組んでいる。
- 今後は、言語技術を生かした単元のゴールの設定の仕方をもっと学びたい。
- 言語技術は、自分が行う言語活動のアイテムになっている。例えば、全校集会にパワーポイントで映像を使って話をする際に、いつも理由を考えさせること、大切なことに気付かせる展開になるよう話の流れを工夫することなど行ってきた。研修で学んだことが役に立っている。
- 問答ゲームを繰り返し学ぶことができて良かった。自分の語彙力や表現力を高めるためのいい学びの場になった。

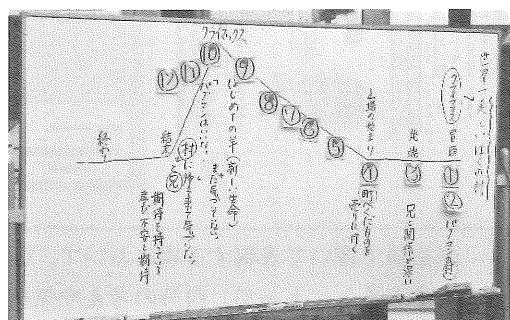


【研修会の様子】

7. 成果と課題

【成 果】

- 若手が、言語後術を意識した実践をしている。そのことを受けて、来年度は6回のうち、3回目と6回目に実践発表を入れてはどうか。
- 学力調査分析もでき、記述問題、とくに算数・理科はパラグラフの意識が大きくなかった。5年次の先生の標準学力調査「聞く・話す」の言語技術的分析は評価が高かった。
- 社会の実践は評価が高かった。「トゥールミン図」という思考ツールの活用は、児童の論理的な思考を促す実践だった。
- 広島の先生方の実践の中で「新聞のコネタ」は定番になってきた。児童が新聞を読むきっかけ作りのアイディアとして参考になった。新聞活用の授業づくりについては、ある程度の型ができたように思う。
- 広島の先生方の国語に関する言語技術を取り入れた実践は、とても参考になった。特に教科書教材を使った「物語の構造分析」はとても重要で、この「物語の構造分析」を意識した物語を書く単元につなげていけないかと思う。



【演習で行った物語の構造分析】

【課題】

- ① 若手の発掘や新しい仲間が増えた一方で、もともとのメンバーの実践発表の場が少なくなってきた。出番がなければお客さんになってしまう。
- ② もともと言語技術を取り入れてきたメンバーは、つくば言語技術教育研究所で言語技術の基本を習っているので、その基本の指導をしながら、それが教科書にどのように反映されているのか、つなぐような実践を6回シリーズでやってみると若い先生たちによく理解されるのではないか。
- ③ 4教科の実践は、学力調査とも連動させながら進んできたが、音楽や図画工作などの鑑賞指導をどうするかなどにも、アプローチしていく必要があるのではないか。
- ④ 国語科においては、的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、お互いの立場や考えを尊重して伝え合う能力を育成することや我が国の言語文化に触れて感性や情緒を育むことが重要であるとされている。
そのために、どのような授業を考えていけばいいのか、4月の研修会では年間

計画を作りたいと考えている。「言語活動の充実」に振り回されない計画を立てるにはどのようにすればいいのか研修を行っていきたい。

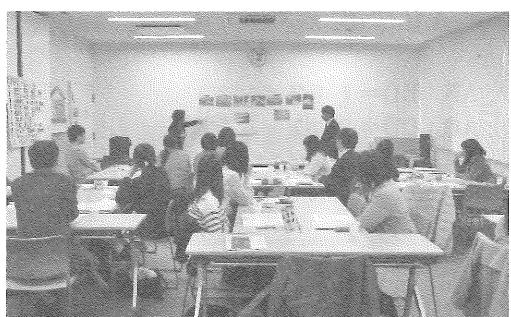
8.まとめ

- 言語技術という「ことばの教育」を根底に考えた学習会であるため、授業改善の視点が明確であった。
- 生きていく上で（生涯学習）大切な力のベース（言語技術）を学び続けていくことは、学校教育のみならず、生涯を通して必要な言語の力であると考える。学習会として、現場の先生方や新聞社、大学の学生や先生方と研修を行ったり情報交換を行ったりすることで、この言語の力の重要性について再認識することができた。
- 学習会を利用して、実践発表会を行う場を持つことができた。会員のキャリアにより、実践の内容が違いそれぞれの発表に交流が持て、その中で学びを得ることができた。

（代表：梶原和美）



【実践発表会の様子】



【研修会の様子】